

## 平成8年度実施内容

### 1, 試験地設定

面積：ヒノキ0.10畝 ケヤキ0.20畝

各樹種調査木40本設定

調査木：小L杭にて一連番号を持って根元に立て表示

### 2, 作業実施時期

平成9年1月~2月

### 3, 枝打方法

#### (1) ヒノキ

枝打ち高の高低により4タイプに分ける。

①枯枝打ち ②樹高1/2枝打ち ③樹高3/5枝打ち ④力枝残し

#### (2) ケヤキ

試験地を除伐全刈実行区、除伐高刈実行区、坪刈実行区、無除伐区の4プロットに分け各プロットで5タイプの枝打ちを実施

①幹に密着して切断 ②幹と45°及び35°の角度で切断 ③幹から0.5cm枝を残して切断 ④幹から1cm枝を残して切断 ⑤幹から2cm枝を残して切断

### 4, 試験地設定時調査項目

(1) 枝径の測定(ケヤキ) 切り口面に沿って、最小径と最短径を測定

(2) 枝打ち後の枝下高・胸高直径・樹高・枝張り(ヒノキ)

(3) 写真記録 試験木全景：ヒノキ 枝打面：ケヤキ

### 5, 試験地表示

全体表示看板1基(1.50m×1.0m)

## 考察

ヒノキは、幹に密着して平滑に枝打ちする作業方法が定着している。今回の試験で、枝打ち高を変えることにより樹勢(樹高及び直径成長)への影響を調べることにより、最も良好な枝打ち高を検証する糸口になるのではないかと考える。

ケヤキは、枝打ち方法別の巻き込み状況及び腐れの侵入状況を調べることにより、枝打ちに対する評価を明らかにすることが出来るのではないかと考える。また、各種除伐の方法の導入は、枝打ち後の生長(枝張り)・材の通直性を観察することにより、保育方法の検証になるのではないかと考える。

## 平成9年度実施内容

### 1, 巻込状況調査

各樹種調査木を、写真記録台帳に現況を整理及びスライド撮影し保存

## 考察

ヒノキについては、枝打ち方法4タイプとも樹勢への影響は現段階では見受けられない。

ケヤキについては、幹に密着及び幹と45°35°の角度で切断する3タイプとも切断面の腐れも見受けられず巻き込んでいる。その中でも幹に密着して枝打ちを実行した切断面の巻き込みが速いようである。また、幹から0.5cm・1cm・2cm枝を残して切断する3タイプとも残した枝から不定枝が発生した。

- 記載要領
- 1 調査結果及び考察を記入する。
  - 2 状況写真は別途整理する。

# 試験経過記録

区分	自主課題
----	------

森林技術センター

(様式3-1)

平成10年度実施内容

1, 巻込状況調査

各樹種調査木を、写真記録台帳に現況を整理及びスライド撮影し保存

## 考察

ヒノキについては、枝打ち方法4タイプとも樹勢への影響は現段階では見受けられない。  
ケヤキについては、幹に密着及び幹と45°35°の角度で切断する3タイプとも切断面の腐れも見受けられず巻き込んでいる。その中でも幹に密着して枝打ちを実行した切断面の巻き込みが速いようである。切断面の直径2cm程度のものは、ほぼ巻き込みを完了している。  
幹から0.5cm・1cm・2cm枝を残して切断する3タイプとも残した枝から不定枝が発生した。

平成11年度実施内容

1, 巻込状況調査

各樹種調査木を、写真記録台帳に現況を整理及びスライド撮影し保存

## 考察

ヒノキについては、枝打ち方法4タイプとも樹勢への影響は現段階では見受けられない。  
ケヤキについては、幹に密着及び幹と45°35°の角度で切断する3タイプとも切断面の腐れも見受けられず巻き込んでいる。その中でも幹に密着して枝打ちを実行した切断面の巻き込みが速いようである。切断面の直径2cm程度のものは、ほぼ巻き込みを完了している。  
幹から0.5cm・1cm・2cm枝を残して切断する3タイプとも残した枝から不定枝が発生した。

- 記載要領
- 1 調査結果及び考察を記入する。
  - 2 状況写真は別途整理する。

平成8年度技術開発実施報告書

様式2-2

No.1

課題名		高品質材生産林における若齢林の枝打技術の確立			
課題区分	自主課題	開発箇所	去川国有林 254は <sub>1</sub> 林小班	開発期間	平成8年度 ～ 平成13年度
当年度別実施計画			当年度実施報告		
1, 試験地設定			1, 試験地設定 面積: ヒノキ0.10% ケヤキ0.20% 各樹種調査木40本設定 調査木: 小L杭にて一連番号を持って根元に立て 標示 作業実施時期: 平成9年1月～2月		
2, 枝打			2, 枝打 ア, ヒノキ 枝打ち高の高低により4タイプに分ける。 ①枯枝打ち ②樹高1/2枝打ち ③樹高3/5枝打ち ④力枝残し イ, ケヤキ 試験地を除伐全刈実行区、除伐高刈実行区、 坪刈実行区、無除伐区の4プロットに分け各 プロットで5タイプの枝打を実施 ①幹に密着して切断 ②幹と45°及び35°の角度で切断 ③幹から0.5cm枝を残して切断 ④幹から1cm枝を残して切断 ⑤幹から2cm枝を残して切断		
3, 試験地表示			3, 試験地表示 全体表示板1基(1.5m×1.0m)		
4, 試験地設定時調査			4, 試験地設定時調査 ア, 枝径の測定(ケヤキ) 切り口面に沿って、最 小径と最大径を測定 イ, 枝打後の枝下高・胸高直径・樹高・枝張り(ヒノキ) ウ, 写真記録 試験木全景:ケヤキ枝打面:イチイガシ・ケヤ		
5, 実施結果			5, 実施結果 ヒノキは、枝打高を変えることにより樹勢(樹高 及び直径生長)への影響を調べることにより、最 も良好な枝打高を検証する糸口になるのではない かと考える。 イチイガシ・ケヤキは枝打ち方法別の巻き込み状 況及び腐れの侵入状況を調べることにより、枝打		

平成8年度技術開発実施報告書

様式2-2

No.2

<p>課題名</p>	<p>高品質材生産林における若齢林の枝打技術の確立</p>				
<p>課題区分</p>	<p>自主課題</p>	<p>開発 個 所</p>	<p>去川国有林 254は1林小班</p>	<p>開 発 期 間</p>	<p>平成8年度 ～ 平成13年度</p>
<p>当年度別実施計画</p>			<p>当年度実施報告</p>		
			<p>ちに対する評価を明らかにすることが出来るのではないかと考える。また、各種除伐方法の導入は、枝打ち後の生長（枝張り）・材の通直性を観察することにより、保育方法の検証になるのではないかと考える。</p>		